鳥取・宮長竹ケ鼻遺跡

1　所在地　鳥取市宮長字竹ケ鼻
2　調査期間　一九九三年（平5）七月～一九九四年三月
3　発掘機関　㈶鳥取市教育福祉振興会
4　調査担当者　稲浜隆志
5　遺跡の種類　集落跡
6　遺跡の年代　古墳時代～中世
7　遺跡及び木簡出土遺構の概要

宮長竹ケ鼻遺跡は鳥取平野南部の水田地帯に位置する。近年、付近一帯は工業団地造成などの開発が進行し、大きく変容しつつある。

（鳥取南部）

鳥取平野中央を流れる千代川とそれに合流する大路川にはさまれる地形からみて、古来いくたびもの水害に見舞われたものと推察される。遺構検出面での標高は五～六mを測る。

宮長竹ケ鼻遺跡の調査は、国道二九号バイパス建設に伴う発掘調査であり、限られた面積の発掘ではあったが、鳥取平野南部の古代から中世の歴史を考える上で貴重な資料を得ることができた。

調査の結果、古墳時代から中世までのものとみられる遺構が検出された。掘立柱建物・井戸状遺構・土坑・溝状遺構・ピット群・土壙墓であるが、特に溝状遺構は計二一条を数える。出土した遺物は、土師器・須恵器・陶磁器・木製品、遺構外からは縄文土器・石器などがある。土壙墓からは、曲物の棺内に人骨（壮年男性？）を検出し、棺外で一五世紀に比定し得る漆器椀三点が出土している。

木簡は、幅八m、深さ一・五mの溝状遺構の埋土下層から出土した。この溝状遺構（一五m分を検出）の全容は明らかでないが、堆積からみて水路として機能していた可能性が高い。木簡一点のほか、土師器・須恵器・木製品が出土し、七世紀から長期間機能したと考えておきたい。木製品の中には、人形一点、荷札状木製品三点（墨痕みられず）もある。

8　木簡の釈文・内容

(1)　「V□　□V」　140×22×4.5　031

形状からみて荷札の可能性を考えたい。遺存状態が悪く、赤外線テレビカメラ装置によって片面に墨痕は確認できたものの、内容の判読はできなかった。

（稲浜隆志）

9 関係文献

㈶鳥取市教育福祉振興会『紙子谷古墳群・宮長竹ヶ鼻遺跡』（一九九四年）

『長登銅山跡』Ⅱ（美東町文化財調査報告第五集）

本書は、山口県美祢郡美東町に所在する長登銅山跡の、一九八九年度から一九九一年度までの発掘調査の報告書である。東大寺大仏の料銅の産地であることが明らかになり、また銅生産に関わる多数の木簡が出土した遺跡として著名である。本誌一三号、一四号で紹介されたものを含め、計七五点の木簡が出土しており、このうち釈読可能な四九点について、実測図と写真（一部赤外線テレビカメラの画像を併用）を掲載する。

また、池田善文「古代の採銅をめぐって」、池田善文「古代銅製錬の実態と若干の問題点」、巽淳一郎「長登製銅所出土土器について」、池田善文「土器の基準資料と編年について」、小池伸彦「長登銅山出土の古代の木製品について」、八木充「長登木簡からみた古代銅生産」の六編の論考を収録する。

申込先　美東町教育委員会

〒七五四―〇一　山口県美祢郡美東町大田六一七〇―一

ＴＥＬ　〇八三九六―二―〇五五五

頒価　五〇〇〇円（送料込み）　Ｂ５判　二六六頁